

2019 年度 (平成 31 年度) 学校評価自己評価表

| | | | |
|-------|------|------------------|--------------|
| 大門 | 中学校区 | 校番 | 福山市立 大津野小 学校 |
| 最終更新日 | | 2019年(平成31年)4月1日 | |

I 福山市
 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

| | | | |
|--|---|--|--|
| 前年度学校関係者評価の主な内容 ・子ども主体の活動を推進する ・情報発信及び地域行事への参加等により、地域と学校の協力体制を図る | 児童生徒の現状 ・思考力・表現力が弱い。 ・自尊感情は伸びてきたが、主体的に行動する力は弱い。 | 育成する力 <small>(21世紀型“スキル&倫理観”)</small> | 課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力 |
| | | めざす子ども像 <small>(義務教育修了時の姿)</small> | 自ら考え、学び、表現し、自尊感情の高い生徒 |
| | | 中学校区として統一した取組等 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びに向けた授業を創る。 ・レーダーチャート等を活用し、学級力や自尊感情を高める取組をする。(年3回アンケート実施) ・ワーク・ライフ・バランスを意識した働き方を進める。 |

III 自校

| | | | | | | | |
|---|--|--|---|--|---|--|-------------------------------------|
| ミッション 見えない「人間の根っこ(学問・社会性)」を育てる | | 育成する力 <small>(21世紀型“スキル&倫理観”)</small> | | 課題発見・解決力 | 思考力・判断力・表現力 | 主体性・積極性 | 共感力 |
| 学校教育目標 大きく広げる知識 積み上げる伝統 のばす体力 | | めざす子ども像 | 1・2年 | 自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。 | 生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。 | 自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。 | 身近な人に温かい心で接している。 |
| 現状 〈児童生徒〉 ○学級会議や全校集会、いろいろな表彰等を通して、学級力や自尊感情が高まり、考えて動く児童が増えてきた。 △基礎学力・活用力が低く、回りの状況を見て自分で判断して、行動できる力はまだ弱い。 △体力面が弱い。 〈授業〉 ○教科領域等の関連を図り、児童の疑問ややってみようゴールを大切に単元づくりを通して、児童の学習に対する意欲が高まってきた。 △教師主導の授業も多く、児童一人一人の主体的な学びの保障が十分できていない。学級差が大きい。 | | | 3・4年 | 疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。 | 生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えを持ち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。 | 集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。 | 相手の気持ちを考え、行動している。 |
| | | | 5・6年 | 疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。 | 生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。 | 集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。 | 相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。 |
| | | 教科等 | 国語科・特別活動 | | | | |
| | | 研究 | 主題・内容等 関わり合い、認め合い、主体的に学び続ける授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～ | | | | |
| | | めざす授業の姿 | 自ら考え、学び、友達と協働しながらともに高まり合う授業 <ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもとに自分の考えをもつ授業 ・児童が互いに学び合い、「わかった」「できた」「学びが深まった」と実感できる授業 | | | | |

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大津野小 学校

| 年目 | 中期経営目標 | 重点 | 分類 | 短期経営目標 | 目標達成に向けた取組 | 評価指標 | 中間評価（10月1日） | | | | 最終評価（2月末） | | | | |
|----|------------------------|----|-----|------------------------------------|--|--|-------------|--------|------|------|--------------------------------|--------|------|------|------|
| | | | | | | | □指標に係る取組状況 | プロセス評価 | 達成評価 | 改善方策 | □指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況 | プロセス評価 | 達成評価 | 総合評価 | 改善方策 |
| | 基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成 | | 見直し | 国語科・算数科における基礎学力を高める【課】【思】 | 教科・領域をつないだ単元づくりをする。 | 国語科の単元テストの「読む・言語」観点において、60%未満の児童を低学年6%、中学年9%、高学年12%未満にする。【単元テスト】 | | | | | | | | | |
| | | | | | 児童の課題を分析し、次への改善策を図る。 | 算数科の単元テストの「技能」観点において、60%未満の児童を低学年6%、中学年9%、高学年12%未満にする。【単元テスト】 | | | | | | | | | |
| | 主体性・積極性の育成 | ★ | 見直し | 自ら課題を発見し、課題解決に向けて努力する児童を育てる【課】【主】 | 月1回OPT（大津野プロジェクトタイム）を実施し、つきたい力を掲示する。全校集会及び異学年での集会を児童の学びに応じて設定する。 | 学級力をレーダーチャートにおける「目標達成力」を85%以上にする。【毎月のレーダーチャート】 | | | | | | | | | |
| | たくましい体の育成 | | 見直し | めあてをもち、自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】【主】 | 課題のある種目について学期ごとの重点項目を設定し、体育授業の改善に取り組む。 | 新体力テストにおける県平均以上の種目率を65%以上にす。【体カテスト】 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--------------------|---|-----|--------------------------|-----------------------------------|--|----------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 2 | 教職員の元気と授業力向上 | ★ | 見直し | 児童が自ら考え、学ぶ授業をつくる【課】【主】 | 1時間や単元の終わりに振り返りの時間を設定し、児童の学びを見取る。 | 友達と話し合う活動を通して、「自分の考えを広げたり、深めたりすることができる」と肯定的評価する児童を80%にする。【児童アンケート】 | | | | | | | | | | | |
| | | | | 新規 | 仕事のスピード化・効率化を意識した職務を行う【課】【主】 | 週・月ごとの計画を早め立て、見直しをもって職務遂行する。 | 昨年度より平均10分間退校時刻を早める。 | | | | | | | | | | |
| 3 | 保護者・地域から信頼される学校の創造 | | 見直し | 地域に愛着をもち、地域貢献する児童を育てる【共】 | 年2回以上地域の人とふれあう授業をつくる。 | 「大津野が好き。」と言える児童を85%以上にする。【児童アンケート】 | | | | | | | | | | | |

[プロセス評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 |
|----|--|
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 |

[達成評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 |
|----|------------------------|
| 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 |
| 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 |
| 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 |
| 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 |
| 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 |

[総合評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 | |
|----|-----------------|-----------------|
| 5 | 100%以上の達成度 | 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | 60%以上80%未満の達成度 | ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | 40%以上60%未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | 40%未満の達成度 | 目標を達成できなかった。 |